

# 放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2024年12月  
結果公表日: 2025年3月27日

## 回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 100%  
保護者様: 20名回答、回答率 80%

## 職員の意見

### ○環境・体制整備

- ・法令に基づいた教室の広さでサービスを提供している。
- ・法令上必要な人員は常に配置することが出来ている。
- ・クールダウンや感染症の予防として、相談室をいつでも使用できるようにしている。

### ○業務改善

- ・全職員が自己評価シートを用いて目標を設定し、上長との振り返りを行う時間を設けている。
- ・教室内でのプログラムに不具合やトラブルなどがなければ振り返りを行い、課題が見つかった際には、教室全体で解決できるように原因を整理し迅速に帰結できるように心がけている。
- ・階層別研修や、感染症予防に対する研修、eラーニングを取り入れた研修など法人における研修制度が充実しており、また教室内で必要だと感じた際に教室内研修を開き、教室全体で課題解決に向けての手立てを考えることができている。

### ○適切な支援の提供

- ・今年度より、5領域を取り入れた活動プログラムを毎月教室スタッフで分担して立案し、実施している。
- ・半年ごとの個別支援計画更新面談でアセスメントを行い記録に残し、今後の支援に活用している。
- ・日ごろから支援について話し合う機会を設けている。支援計画や質問票等の資料確認も徹底しており個別支援計画に基づいた支援が提供できる様に心がけている。
- ・個別課題と集団療育の時間を分けて提供している。
- ・業務前ミーティングを開始する時間を始業時に確認し、平日は送迎に出る前、長期休暇は送迎後に翌日の打ち合わせを行っている。

### ○関係機関や保護者との連携

- ・学校や他事業所との担当者会議には児童発達支援管理責任者をメインとし、精通した職員が参加している。
- ・送迎時にその日の様子を保護者様にお伝えしている。送迎がない方にもサービス提供記録に記載し利用ごとに情報の共有を行っている。
- ・こども部会の定例会に出席している。

### ○保護者への説明責任等

- ・運営規定、支援の内容について契約時に説明を行い、変更や問い合わせがあった際は適宜対応を行っている。
- ・療育参観を行い、保護者様と児童発達支援管理責任者の情報共有できる場所を提供した。

### ○非常時等の対応

- ・全利用児童が参加出来る様に毎月曜日を変えて様々な災害を想定した避難訓練を行っている。
- ・虐待防止委員会を設置し定期的に研修を行っている。
- ・身体拘束に関して個別支援計画に記載し、面談時には保護者の方にも説明を行っている。

# 保護者様のご意見

## ○環境・体制整備

- ・活動スペースに関しては、「身体も大きいのもう少し広くてもいいかと思う」とのご意見をいただきました。
- ・教室設備に関しては「換気が不十分」とのご意見をいただきました。
- ・事業所のバリアフリー化への配慮がなされているかについて、7割の方に「はい」とお答えいただきました。

## ○適切な支援の提供

- ・個別支援計画作成に関してはお答えいただいた全ての利用者様に、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で作成されていると回答いただきました。
- ・活動プログラムが固定されないよう工夫されているかの質問には、20名全ての方から「はい」との回答をいただき、満足度が高いことがうかがえた。
- ・地域との交流に関しては「いいえ」との回答を多くいただきました。

## ○保護者への説明等

- ・家族支援プログラムに関して「学校を含め3者連携をしていただきたい。」「同年代の保護者会がもう少しあると嬉しい」等の意見をいただきました。
- ・事業所のスタッフから共感的に支援されていますかに関して20名すべての方から「はい」を頂き、支援に関しての満足度が高いことがうかがえた。

## ○非常時等の対応

- ・マニュアルの周知・説明がなされているかの質問には8割の方に「はい」とご回答いただき、非常災害の発生に備えた訓練が行われているかの質問には9割の方に「はい」とお答えいただきました。

## ○満足度

- ・事業所の支援に満足しているかの質問には、20名全ての方から「はい」との回答をいただき、「毎日安心して過ごせています。」とのご意見をいただきました。
- ・子どもが通所を楽しみにしているかの質問には9割の方に「はい」とお答えいただきました。しかし、1割の方からは「どちらともいえない」との回答をいただきました。中高生で私生活も充実してきていることがうかがえた。全利用者様に楽しんでように療育活動の内容を工夫し、スタッフの支援力向上を図っていく。

# 昨年度の振り返り

## ○今年度の取り組む具体策

- ・社会に出た時に必要なスキルが身につけられるよう、就労訓練などのあらゆる社会生活を想定した集団療育活動を実施していく。
- ・作業所の見学など、関係機関連携を積極的に行っていく。
- ・法人内の他教室と連携を行い、活動内容の検討を広い視野をもって取り組んでいく。
- ・ヒヤリハットや事例検討の機会を増やすことで職員個々のスキルアップを目指す。

## ○改善できた点・まだ残る課題

- ・毎月1週間を就労週間とし、「面接練習」「お金の使い方」「マナー講座」当の社会生活を想定した集団活動を提供をした。
- ・利用者様が使用している学校・他施設等の関係機関を多く実施できた。そのため関係している事業所が統一した支援を行うことにもつながった。
- ・近隣の教室との連携に関して、チャットや電話、実際に教室に入ったりしながら広い視野を持って取り組むことが出来た。
- ・ヒヤリハットに関して作成が未熟なところもあったため来年度は毎月の目安を決め、教室スタッフ全員で声掛けを行なう。

## アンケート結果からみる教室の強み・改善点

### ○教室の強み

- ・利用児童、保護者の方のニーズや課題に沿った個別支援計画のもと、支援を行うことが出来ている。
- ・スタッフ全員が児童一人ひとりの個性を理解したうえで、療育活動の立案を行っている為、療育活動を楽しみにご利用して下さる方が多くいる。
- ・保護者の方からのご相談やお悩み、児童の様子等、業務前ミーティング時に必ずスタッフ間で共有を行い、教室全員で考えて対応することができている。

### ○改善点

- ・活動スペースやバリアフリー・換気等教室設備に関してご不安なく通所いただけるよう検討が必要。
- ・コロナ5類に伴うことで保護者会を実施することは出来たが、全利用者様が1度は参加できるように1年を通して2回以上実施できるようにする。
- ・ブログの更新頻度が低く、日々の教室での児童の姿を見てもらえる機会が少ない。ブログの頻度を上げる必要がある。

## 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

### ○中長期的な改善計画

- ・卒業後の進路について、保護者様からの相談に対応できるように就労継続支援B型作業所等との連携強化を図っていく。
- ・中高生がもつ困りごとに職員一人ひとりが対応できるよう、研修や日々の振り返り等を行うことでスキルアップを目指す。
- ・中高生としての「安心」「楽しい」とは何かを理解し、利用者様も行きたいと思え、保護者の方も安心して預けていただけるような教室作りに努める。

### ○1年間で取り組む具体策

- ・社会に出た時に必要なスキルが身につけられるよう、就労訓練などのあらゆる社会生活を想定した集団療育活動を実施していく。
- ・作業所の見学など、関係機関連携を積極的に行っていく。
- ・法人内の他教室と連携を行い、活動内容の検討を広い視野をもって取り組んでいく。
- ・ヒヤリハットや事例検討の機会を増やすことで職員個々のスキルアップを目指す。
- ・1カ月に1回以上ブログを更新できるように、業務の分担を行い、更新担当を決める。